

平成27年1月オープン
予定の新斎場(半田地内)



平成28年4月オープン予定の
津市リサイクルセンター(片田田中町地内)

例えば4大プロジェクトでは、契約ができなかったものはなかったんだ。

新しい斎場の整備・運営(約58億円)、新しいごみの最終処分場第一期施設の建設(約36億円)やリサイクルセンターの建設(約38億円)は、全て市が予定していた価格よりも低い価格で落札されているんだよ。そのころまでは、働く人の賃金や材料の値段はまだそれほど上がってなかったみたいだね。

よかった。それらは予定どおり進んでいるんだね。



篠ヶ広山口線の橋梁工事現場

それに、今年に入ってから、数億円の工事には多くの業者が入札に参加していて、例えば、建築工事では、神戸小学校の大規模改造第三期工事(約2.9億円)や久居庁舎整備事業に伴うポルタひさいの改修工事(約4.4億円)、トンネルや橋の工事では、山口山本線のトンネル工事(約8.1億円)や篠ヶ広山口線の橋梁工事(約2.1億円)や下水道の工事では、町屋第2雨水幹線の工事(約2億円)や町屋放流幹線の工事(約1.9億円)など、これらは全て順調に進んでいるん

だ。これくらいの大きさの工事だと、働く人は必要なだけ地元で集めることができるっていうことらしいよ。

そうなんだ。じゃあなぜ、サオリーナだけ進まないの？

サオリーナは大きな工事だから、たくさんの人に長い期間働いてもらわなければならないからね。今の建築市場の状況では、人手が不足していて働く人を遠いところからも集めないといけないようなんだ。だから、そのために必要な交通費や宿泊費などの経費も考えなければいけないみたいなんだよ。

建築の材料の値段が上がってきていることや、働く人をたくさん集めることが大変だってことは分かったけど、どうしてそんなことが起こっているの？

東日本大震災の復興に加え、全国的に行われている防災対策工事や東京オリンピック開催に向けた会場の建設など、建築工事が必要なところがすごく増えているのに、工事現場で働く人の数は限られているという状況があるみたいなんだ。



町屋放流幹線の下水道工事現場